

機関リポジトリの現状と課題

-埼玉県地域共同リポジトリSUCRAの取り組みと展開-


鈴木正紀

(文教大学越谷図書館)

suzuki@lib.bunkyo.ac.jp

本日の話題

1. 機関リポジトリの現状（国内）
2. 共同リポジトリの現状（国内）
3. SUCRAについて
4. 文教大学とSUCRA
5. いくつかのトピック
 - 機関リポジトリとILL
 - リポジトリの「拡張」
 - DRF
6. まとめ




1. 機関リポジトリの現状（国内）

概況

- 115のリポジトリが稼働している(2010.1.21 [NII](#))
 - 「機関数」とは一致しない(共同リポジトリの参加機関のカウンターの仕方はまちまち) → ざっと見ただけでは数は把握できないのが現状
 - CF. IRDBでは135(2009.12.31現在)
 - 世界ランキングでは第4位(米国, イギリス, ドイツ, 日本...)
- 概況については以下の文献(やや古いが...)
 - 時実象—「オープンアクセス～機関リポジトリの最新の動向」情報の科学と技術, 59(5), 231-237(2008.2)

概況

- 単独で立ち上げ・維持しているところ
 - 初期は，大手国立大学，大手私立大学中心
 - 現在は，中規模大学も単独で立ち上げる事例がみられる
- 共同リポジトリ
 - 現在，8つの共同リポジトリ([ShaRe](#)サイト)
- サブジェクト・リポジトリ
 - 東京学芸大学(教育分野)など



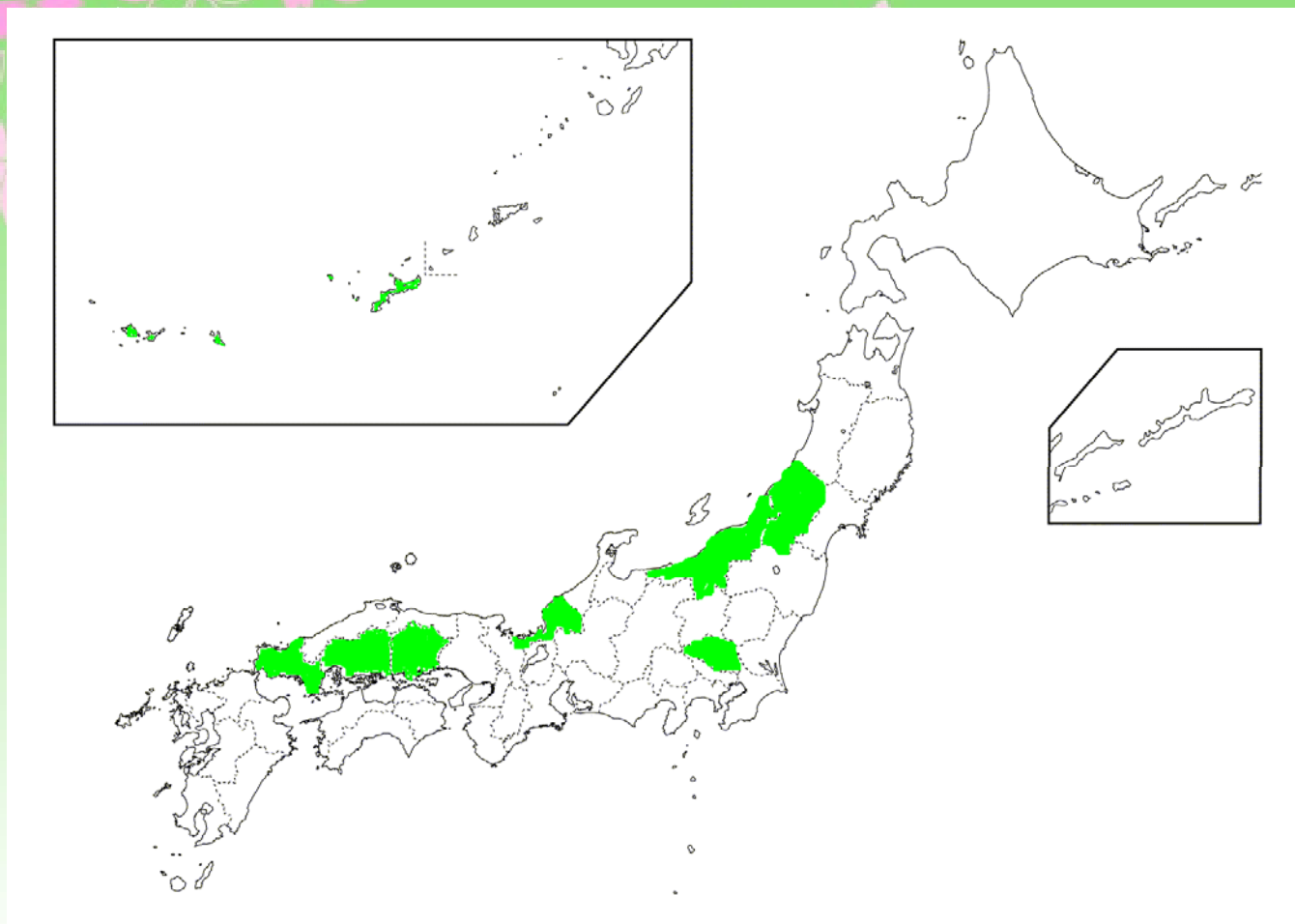
2. 共同リポジトリの現状（国内）

国内8つの共同リポジトリ

- 山形(ゆうキャンパスリポジトリ): 9機関
- 新潟県地域共同リポジトリ(NiRR): 4機関
- 埼玉県地域共同リポジトリ(SUCRA): 7機関
- 福井県地域共同リポジトリ(CRFukui): 10機関
- 岡山共同リポジトリ: 4機関
- 広島県大学共同リポジトリ(HARP): 11機関
- 山口県大学共同リポジトリ(維新): 5機関
- 沖縄地域学リポジトリ: 1機関

2009.2現在。ただしSUCRAは2010.1現在。

共同リポジトリの分布



特徴・トピック

- 地元の国立大学が核となっている点は共通
 - 立ち上げに際しての働きかけ
 - 地元の大学図書館協議会，大学コンソーシアムなどで。あるいは個別に。
 - サーバ：国立大学のサーバを共用
 - 例外：HARP（共同リポジトリ用のサーバを構築）
- プロモーション
 - 共同リポジトリ：モデルの構築と普及」プロジェクト（ShaRe : Shared Repository）
 - 主担当機関：広島大学（ほか14機関が参加）

意義

- 参加機関にとってのメリット
 - 立ち上げ, 構築, 維持におけるコストを軽減することができる
 - これらのコストがハードルとなる場合が多い
 - サーバ
 - ノウハウ
 - 励まし
 - 地域の大学図書館活動の活性化に寄与する

共同リポジトリの今後

- 現在は、「地域」を共通項として組織されているのがほとんどだが、それだけではない
 - 主題などでの「共同」が考えられる
 - 「沖縄地域学」のユニークさ
- NIIの今後の関与はどうか
 - 「共用リポジトリ」([「大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について\(審議のまとめ\)」平成21年7月](#))



3. SUCRAについて

共同リポジトリSUCRAの現状

- SUCRAの3つの顔

1. 埼玉大学の機関リポジトリ

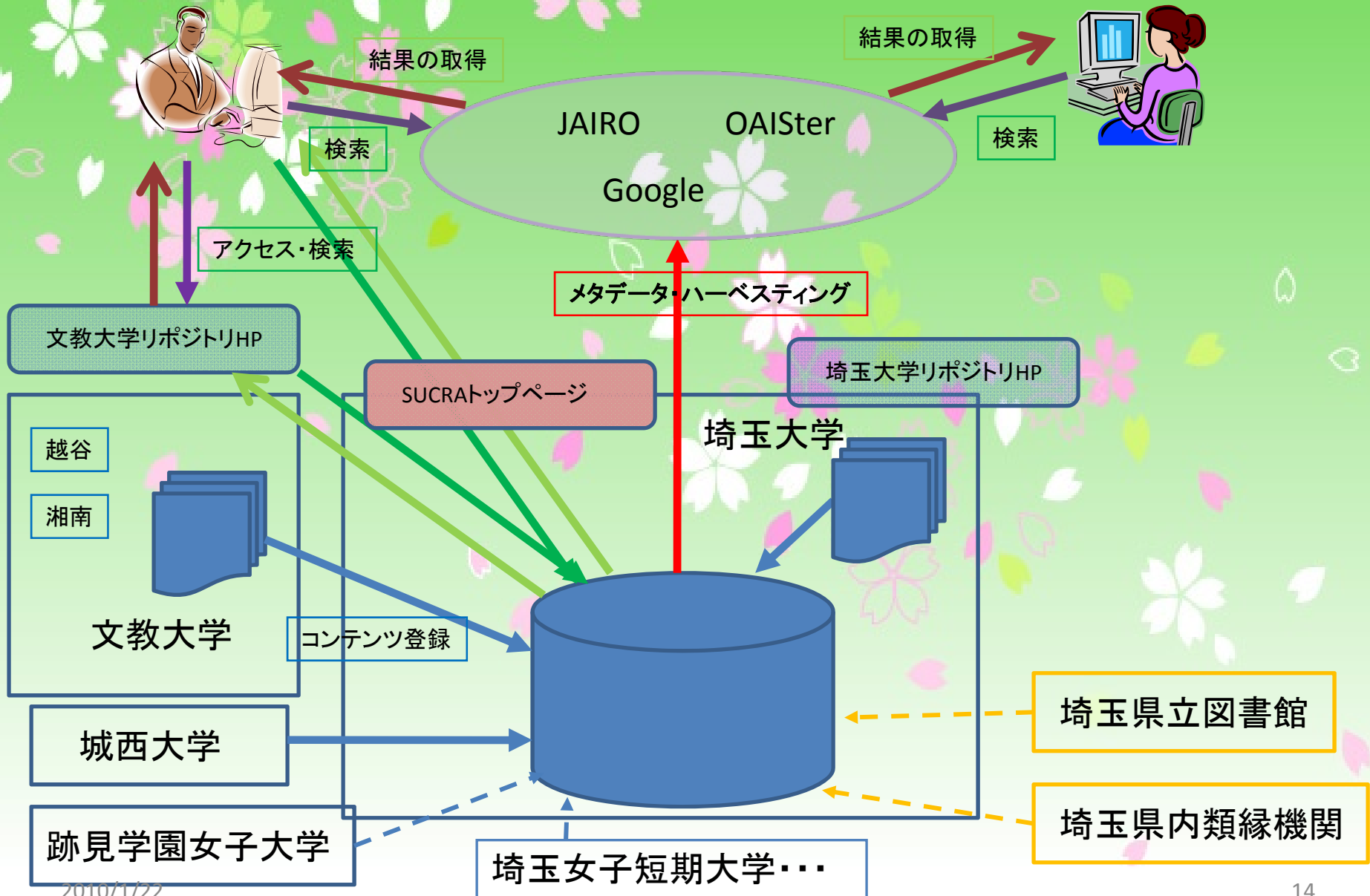
2. 埼玉県内大学の共同リポジトリ

- 埼玉県大学・短期大学図書館協議会 (SALA)

3. 埼玉県の情報発信基地

- 県立図書館, 県内類縁機関へも参加を呼びかけ

埼玉県地域共同リポジトリ概念図



共同リポジトリSUCRAの現状

参加機関

機関名	参加開始時期	登録数	本文ありコンテンツの割合
埼玉大学	2008.3	4,487	99.9%
文教大学	2008.11	330	90.2%
城西大学	2009.1	857	99.5%
埼玉女子短期大学	2009.10	278	93.9%
跡見学園女子大学	2009.11	110	100.0%
国立女性教育会館	2009.11	67	100.0%
駿河台大学	2010.1	35	100.0%


※IRDBより(但し, 跡見, 駿河台はSUCRAのサイトから)

2009年度の動き・成果

- 参加機関数が増加
 - 3機関から7機関へ
- SUCRA実務研修会の開催
 - 2009年10月15日(金)開催(於:文教大学越谷図書館)
 - ねらい:SUCRAへの登録実習を通じて, SUCRA(リポジトリ)への理解を深めてもらう
 - 県内の大学図書館, 県立図書館等への呼びかけ
 - ShaReからの支援(講師派遣:新潟, 広島より)
 - 参加者:30名(講師含む)
 - 資料は以下のところに
 - http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?item_id=7944

2010年度へ向けて

- 参加機関のさらなる増加をめざす
 - SALA加盟機関
 - 県内図書館・類縁機関（「3つめの顔」実現のために）
- SUCRAにかかわる活動を通じて，SALA，県内図書館の活動を活性化させる



4. 文教大学とSUCRA

経過と現状

- 「大学の事業」として承認（大学審議会決定 2008.4）
 - 平成20-21年度CSI委託事業連携機関として埼玉大学を通して申請
- 現在は、ボーン・デジタルの学部紀要（5学部、1短期大学部）を登録（約10年分、約500件）
 - CSI委託事業に登録目標件数を申請
 - 1年目は132件（>_<）

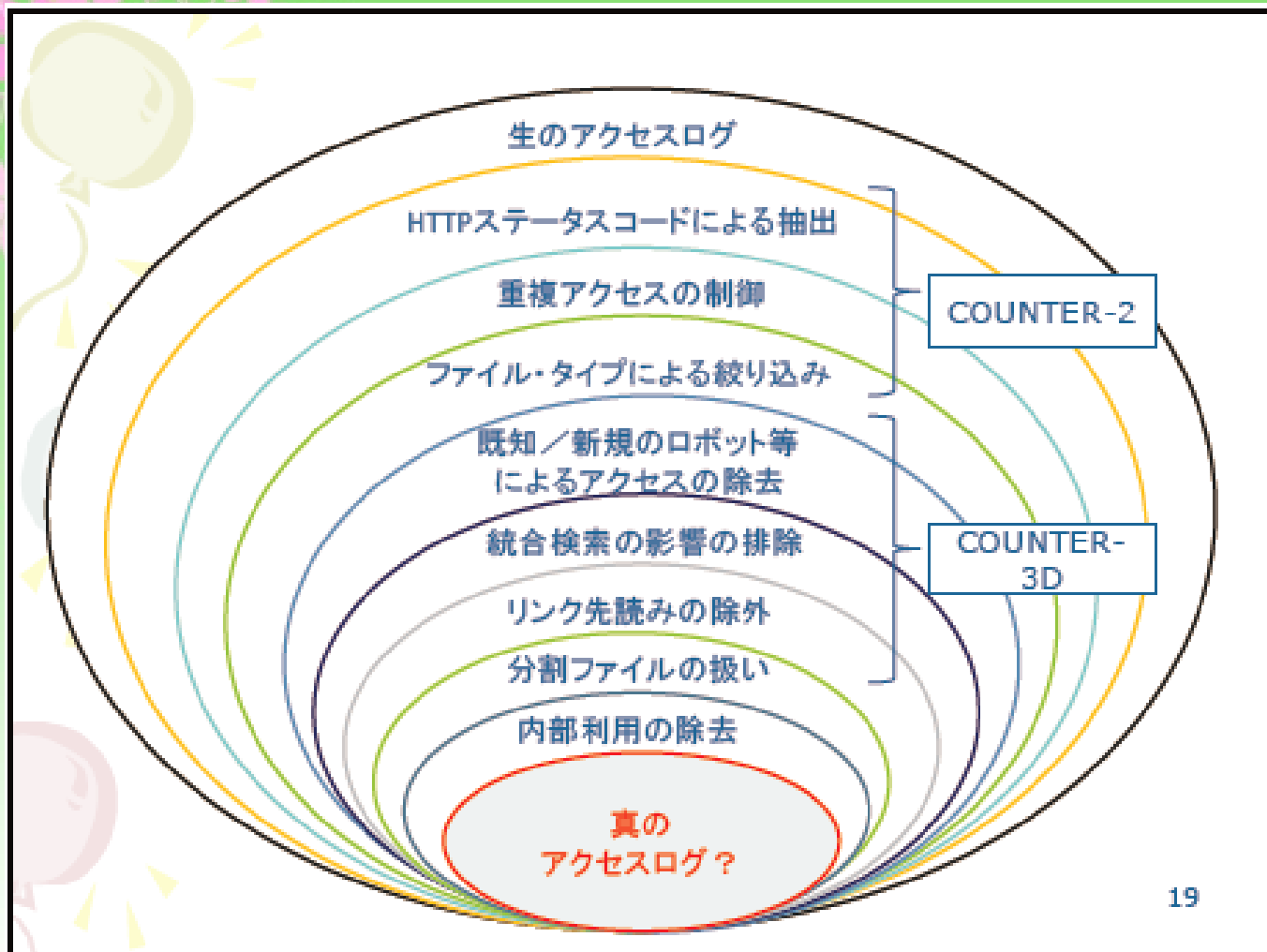
今後の展開

- 学部紀要の遡及登録
 - 著作権処理が課題
- 研究所紀要を登録対象にする(一部すでに開始)
 - 学内調整(どこで調整をするか)
- 2010年度から学会誌等に掲載されたものの登録(のための呼び掛け)を開始
 - 学長等への働きかけ, 学長から教員への働きかけ(の要請)
- 「教育系サブジェクトリポジトリ」への参加
 - コンテンツの視認性向上のため
 - ハーベスト実験中

今後の展開

- 登録者(教員)へのフィードバック
 - 「リポジトリへの登録はメリットがある！」ことを実感させる必要(登録へのインセンティブを与える)
 - ダウンロード数の通知 など
 - ! 「ダウンロード数」のカウントはむずかしい
 - 「機関リポジリアウトプット評価システムROAT(Repository Output Assessment Tool) 」
([機関リポジトリ評価のための基盤事業](#) [代表機関: 千葉大学])
- 大学のカバーページの作成
 - 文教大学にとってのSUCRAの「顔」

「真の」アクセスログ



19

業務体制


- 越谷・湘南図書館でそれぞれ登録作業を行う
 - 越谷：昨年度は専任職員1名（兼務），今年度は2009年11月より非常勤職員が登録作業を担当（1.5名？体制）
 - 専任職員は学内プロモーション，外部との調整を担当
 - 湘南：専任職員1名が担当（兼務）

「業務体制」についての考え方

- 実務についての「リポジトリ担当」を置いて、登録業務を実施する
 - 比較的多くの機関がこの方式をとっていると思われる
- 日常の業務体制に広く薄く組み込む
 - 例：情報収集はパブリック・サービス部門で、コンテンツ作成と登録はテクニカル・サービス部門で
 - 多くのスタッフへのリポジトリに対する意識づけを考えた場合は、こちらのほうがよいか？

「メタデータのみ」が多い訳

- リポジトリの本旨はコンテンツ(本文)の提供にある
 - “メタデータのみ”は望ましくない
- 文教大学の本文付きデータの登録率は90.2%
 - やむを得ざる選択
- CiNii連携の問題
 - 現在は, SUCRAに登録することでデータはCiNiiに反映される
 - NII「学術コンテンツ登録システム」との作業の重複を避けるため
 - CiNiiのディレクトリ検索への対応(「目次情報」提供の必要)



5. いくつかのトピック

機関リポジトリとILL

- 「〇〇様:この論文はCiNiiまたはインターネットで検索しますと機関リポジトリに全文が公開されていますのでご利用ください。依頼はキャンセルになります。」
 - ILL複写依頼に対するキャンセルメールの例
- オープンアクセス文献の普及によりILL(特に文献複写)はどの程度減少していくのか
 - 理論値としてはゼロ?
 - [IRcuresILLプロジェクト](#)
- リンクリゾルバの可能性と課題

リポジトリの「拡張」

- 研究業績DBとの連携
 - 信州大学, 埼玉大学
 - 村田輝「機関リポジトリの拡充・発展による教育研究活動データベース新システムの構築」大学図書館研究, No.86, pp63-71(2009)
- シラバスとの連携
- 「書誌事項」でこれらとリポジトリを串刺しにする

DRF: Digital Repository Federation

- 国内のリポジトリ事業，オープンアクセス運動を推進する団体
 - 普及活動（ワークショップ，国際会議等の開催，図書館総合展でのフォーラム主催）
 - 担当者の相互啓発
 - 情報交換（メーリングリスト）
 - 国際連携（欧州DRIVERプロジェクト）
- 2010年2月で第2期の活動を終了（2010年2月5日：DRF6）
- 第3期の活動開始を決定

DRFIC2009より

- DRF International Conference 2009 ■
(2009.12.3-4 東京工業大学蔵前会館)
- 最も印象に残ったトピック
 - 利用者のニーズにより適合したリポジトリの構築
(Studying Users to Design a Better Repository.
Susan Gibbons: University of Rochester) ■
 - 「完成した成果の置場」から「研究者のニーズ」に
応える, より動的な仕掛けへ: オーサリング・ツール
 - 利用者調査から導いた方向性

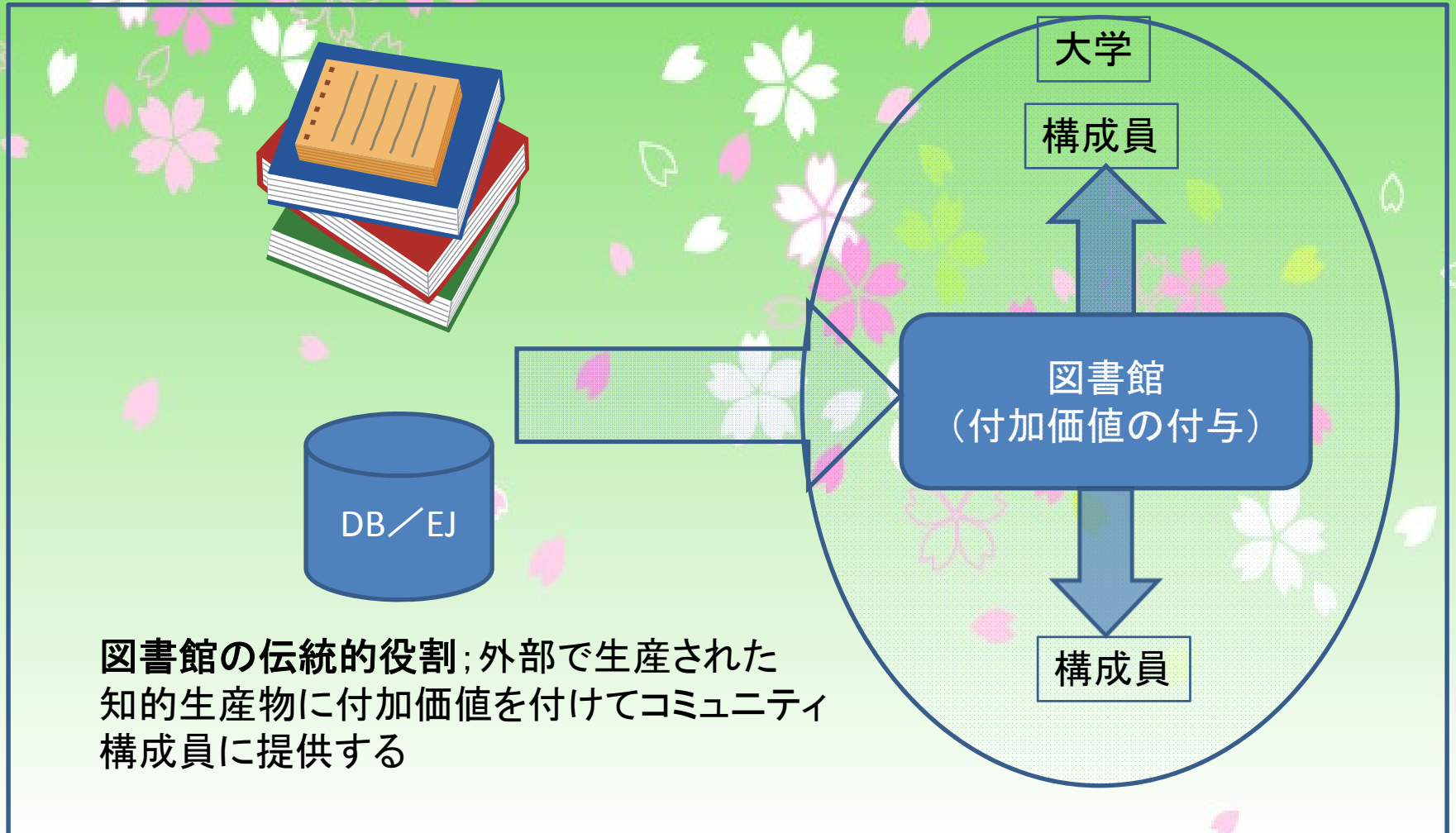


6. まとめ

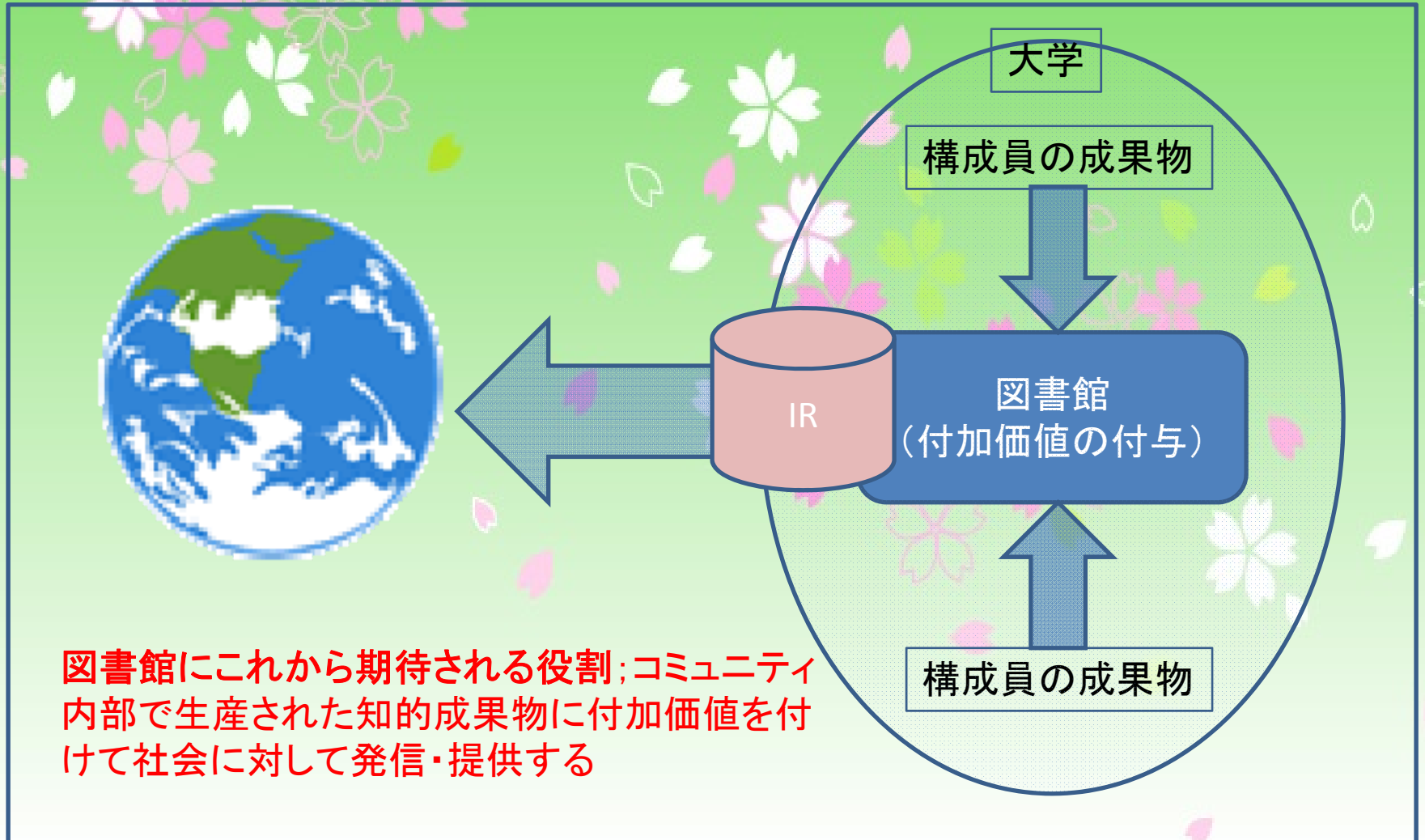
リポジトリ活動を促進させるもの

- 人的連携
 - リポジトリの実務自体は地道な作業
 - 機関・担当者には、コンテンツ収集、情報発信に対する継続的な熱意が求められる
 - SALAにおけるつながり → 共同でやることの意義
 - DRFにおけるつながり など
 - **いずれも「コミュニティ形成」の問題**
- Worldwideな取組みであることの自覚
 - 自機関の情報発信という点が強調される(それはそれでよいが...)
 - オープンアクセス運動の一翼を担っている、という意識(をどこかで持っていたい) → 恩恵を受けるのは私たち(とその利用者)

大学・図書館にとってのリポジトリとは



大学・図書館にとってのリポジトリとは



図書館にこれから期待される役割; コミュニティ内部で生産された知的成果物に付加価値を付けて社会に対して発信・提供する

最後に：文献紹介

- 「仕事としての機関リポジトリ構築業務」を考
えるために
 - 中請真弓「[HARPと私](#)」大学の図書館, 28(2), 18-
20(2009)
- 文教大学にとってのリポジトリの実質的始ま
りについて
 - 鈴木正紀「[DRF/Share-Hiroshimaワークショップに
参加して](#)」大学の図書館, 28(2), 20-22(2009)